

会議録

会議名 (審議会等名)	相模原市南区区民会議		
事務局 (担当課)	南区役所区政策課 電話042-749-2134 (直通)		
開催日時	令和7年8月20日(水) 13時30分から15時45分まで		
開催場所	南区合同庁舎3階 講堂		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	5人(南区長、他4人)	
公開の可否	<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 区長挨拶</p> <p>3 議題</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 無作為抽出型区民討議会の運営委員について</p> <p style="margin-left: 20px;">(2) 南区基本計画に示す取組目標の進捗について</p> <p style="margin-left: 40px;">ア 取組目標V 環境を守り育てるまちをつくります</p> <p style="margin-left: 40px;">イ 取組目標VI 区民がいきいきと活躍する協働のまちをつくります</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>		

審議経過

主な内容は、次のとおり。(○は委員、●は事務局の発言)

1 開会

2 区長挨拶

加藤区長から挨拶を行った。

3 議題

(1) 無作為抽出型区民討議会の運営委員について

- 資料に基づき事務局から説明を行った。
- より具体的なことも含めて隈本委員に無作為抽出型区民討議会についてどんなことをやっているのかイメージを皆さんに共有をお願いしたい。(井坂会長)
- イメージとしては、1チーム5, 6人の若者から高齢者、各地域住民のグループを作り、どんな要素が地域活性化に必要なのかを話し合い、最終的にはグループごとに資料を作り発表した。因みにこの討議会がきっかけで区民会議に参加することになった。(隈本委員)
- この中から運営委員になっていただく方を3名選びたいと思っている。運営委員にやっていただくことは、実行委員も兼ねている隈本さんと一緒になって、「今回はどういうテーマでやっていこうか」などの提案、次回の区民会議で具体的なテーマが決まったら、討議の具体的な進め方を考えていただき、当日も運営の最前線を任せたいと考えている。前回も公募委員含めて3人選出した。(井坂会長)
- 補足情報として、当日以外の事前打ち合わせは、普段は合同庁舎やユニコムプラザの会議室で若者参加プロジェクトと会議を行っている。時間帯は夜6時~8時くらいの時間になるのでその時間帯に来ていただける方に担っていただきたい。基本的には事務局の方にも来ていただくので手続き面なども問題ない。(隈本委員)
- 今いただいているスケジュールだが、運営委員会そのものは月1回くらい、平日の夜になるかと思う。日程は運営委員の中で調整していただいている。オンラインなどの打ち合せ等もあるかと思う。(井坂会長)
- 夜は事業がある。活動は平日の夜なのか(松本委員)
- 6年度は、7時前後の開始が多かった。若者参加プロジェクトの会議に合わせて運営委員

会を開いている。都合が悪い方は、Zoomでの参加も対応している。(事務局)

- 夜だと青年会議所と被る場合があり出席できないが、代理出席が可能であれば大丈夫だと思う。(姫野委員)
- 私も同様である。さがまちとして参加が可能であれば確実性は高くなると思う。(松本委員)
- そういう形で大丈夫か。(井坂会長)

- 可能である。(事務局)

井坂会長より運営委員の就任について打診を行い、嶋村委員、姫野委員、松本委員が承諾した。

- 嶋村委員、さがまち(相模原・町田大学地域コンソーシアム)代表として松本委員、青年会議所代表として姫野委員どうぞよろしく願います。(井坂会長)

(拍手)

- 運営委員の中で日程等調整しながら、今後のことを進めていけたらと思う。(井坂会長)

(2) 南区基本計画に示す取組目標の進捗について

資料に基づき基本計画の進捗および取組目標Ⅴ「環境を守り育てるまちをつくります」の概要について事務局から説明が行われた。

- このテーマは、これまでのテーマの中でもより生活の実感に近いものと思われる。順番にご意見を伺っていく。(井坂会長)
- ゴミの問題について、自治会が連合会ごとに目標を決めて、各自取り組んでいるはず。集団資源回収という手法があり、月に2回くらい日と回収場所を決めて、市民から市の事業とは別に回収して、その売上を募金や子ども会に回している。目的がハッキリしているので市民の皆さんにも受け入れられやすくなっていると思っている。今は単価が下がっているものの年間20万を超える収益を上げている。公園については、里親制度(アダプト制度)が公園課の中にあり、管理を請け負っている。雑草取りや草刈りなど月を決めての清掃はどこの自治会もやっている。市の公園課からも補助金が出るので、清掃用具やお手伝いの人へのお茶くらいは賄えている。自分たちが手を下して綺麗にすると愛着も湧くし汚さなくなる。不当な扱いや使い方をしている人に声を掛けるとか、皆が自分の事として地区内の公園管理をしているし、緑が豊かな相模原というのを皆さん誇りに思っていると思う。フードロスについては、個人的に子ども食堂に持ちこんでくれたり、農業を

やってる方は、玉ねぎ、ジャガイモやお米を持ち込んでくださる話も伺っていて、それで子ども食堂も助かっているという話も聞く。公民館でもフードエコロジーセンターの見学も一生懸命積極的にやって、いかに自分たちが物を大事にしないで捨てるかということを目にして、百聞は一見に如かずみたいな学習もやっていると聞いている。(中村洋子委員)

- 集団資源回収は古雑誌の他には何があるか。(井坂会長)
- ダンボール、古雑誌、古着、缶、茶色い瓶は回収してくれている。(中村洋子委員)
- 公園の美化に関して、参加している人はだいたい固定されているのか。(井坂会長)
- 固定はしない。持ち回りで地区を回している。お子さん連れで来てくれたり、子ども会だけでやってくれたり、年間を通して計画表を作っている。地区内に公園は4箇所、マンション内の公園はマンションの方に協力してやっていただけていると思う。(中村洋子委員)
- 私たちの新磯地区では、まず環境に対しては、全体的には相模川があって田んぼがあって、いわゆる田園風景が綺麗だと言われている。それをどのようにアピールするかが課題。数年前に案山子祭りというのをやった。案山子を何本も立ててやってみたけれども2年で終わってしまった。その案山子を誰が管理するか等、ネガティブな考えが強くて、結局、残念ながら案山子祭りは頓挫してしまった。大凧まつりやザル菊などいろんなお祭りがあるが、新磯の良いところ、どこに位置しているのかということも含めて、アピールしている。ゴミの問題は、毎年同じ事を言われていて、自治会で管理する事が非常にネックになっている。自治会員は半数しかいないが、ゴミは全戸が出す。自治会員は自治会費や管理費を払って自治会じゃない人は出すだけ。そのギャップがあるのでなんとかできないか。自治会に入っていない方は、ゴミを捨ててはいけないという法的な問題はないので口論となる。公共のゴミ捨て場なので、ゴミを出す家の人の全軒にノートに名前を書いてもらい自治会とは関係なくても掃除当番だけはやってくれると言ってくれる方が増えてきている。
(鈴木真司委員)
- PRの部分はお手伝いさせてほしい。この資料に相模川芝桜祭りがあるが、やってくれる方がいなくなったと伺っていて、それこそコロナの前は綺麗だったが残念。あの辺は完全に人手不足なのか。(井坂会長)
- 立ち上げた方が高齢になり長野にお帰りになった。後継者がいなくて、結局まちづくり会議で後継者を募ったが手が挙がらなかった。芝を土手に戻して県に返した。(鈴木真司委員)
- フードドライブのような取組としては、子ども食堂さんとか地区の中で2つくらいある。そういうのがあまり可視化できていない。こういった事の啓発、プロモーションが必要な

気がした。（佐田委員）

- ユニコムなどでもフードドライブをやっていないか。（井坂会長）
- 団体が入って活動している。（松本委員）
- 年何回か。（井坂会長）
- 本日欠席のチームユニバースさんだが、月に1回、食料品や日用品の配布をユニコムさんの会場を借りて行っている。（事務局）
- 公園などの広場については、定期的に草取りなどいろんな事をやって綺麗にはしている。相模川沿いの堤防の辺りというのは、全体で年に1～2回くらいの清掃をやってるけれども、なかなかゴミが減らない。前に私が相模原に来た時には、すごくゴミが多くあったけれども、やはり周りの人たちの清掃などそういうのを見ていると、段々それはなくなったのではないか。まだあるが、少なくなった感じ。（佐田委員）
- 因みに相模川の堤防の中に、家庭菜園みたいなのがあるが、あれは勝手に作っているのか、それとも許可を得て作っているのか。（井坂会長）
- 勝手に作っている。（佐田委員）
- 私どもの子育て広場は、相模大野中央公園の中にあり、今、相模大野中央公園は改修が進んでおり、元々あった噴水がウッドデッキになって子どもたちが水遊びできるようになる予定であったり、タリーズコーヒーが建設予定だったりとか、子どもトイレとかみんなのトイレについてもオムツ替えがしやすく、広くて開放的なトイレができる予定。子育て世代にはとても使いやすくて需要がある南区や相模大野地域の中心となるような公園になるんじゃないかと私たちも期待している。それについての地域の住民の方向けの説明会にも顔を出したが、やはり地域のそういった説明会にいらっしゃる方はお近くにお住まいの高齢の方も多し。ウッドデッキができると鴨がいなくなってしまうんじゃないかという心配の声もたくさん挙がっていて、やはり子育て世代と子育てが終わって落ち着いて暮らしを営みたい世代の需要の差があると思った。そこもまた難しいかと思うが、せっかく広い公園なので、みんなの需要を満たせるような、公園作りができるようになったらいいなと感じた。（渡辺委員）
- 因みに、中央公園を渡辺委員の目線から見て、子育て世代として、もうちょっとこういうのがあるといいなとか、これは要らないとか逆に危険だなと思う事はあるか。（井坂会長）
- トイレは本当に問題というか、暗くて使いづらい。そこが新しく綺麗になるのはとても嬉しく思った。あとは、どうしても日影が少ないので、近隣に保育園が多いので、園児たちが遊びに来たいと思うけれども、やはり夏はちょっと暑すぎて来られなくて子どもの数が

減るというのは感じている。(渡辺委員)

- 環境の問題について一個人の話になってしまうが、私は犬を飼っていて散歩に行く時などに、ポイ捨てるコンビニのホットスナックのゴミが外に落ちていたりすると、犬が咥えて離すのが大変だったりして難儀だと思いながら日々生活をしている。なんでこんなにゴミが落ちているのか。私が子どもの時はいろんな場所にゴミ箱があった気がするが、なんでなくなったのかと考えた。アメリカのテロの件があった時に、駅などからゴミ箱が消えて、今はコンビニで捨てるくらいしかできない。そういう事の背景からゴミをポイ捨てる意識になってしまったのかなと個人的な見解として思った。あとは、青年会議所としてこれまで過去に実施させていただいたものだが、2022年に給食を題目にしたSDGS教育をさせていただいた。相模原市南区を含む、相模原市全ての小学校を対象に、普段から食べている給食に着目させていただいた。まず、給食によく出てくる豚肉などがどのような形でその豚さんが育って、どのような形でそれが材料として食材で出てくるかを、フードロスの観点から、豚さんが食べている肥料は多くのスーパーさんからの廃棄物だったりとか、そういうものからこの豚が育って、皆さまの給食の場に出ています、などの教育を「総合」の時間に1時間かけてさせていただいて、その後に給食を食べていただく、という形の授業をさせていただいた。その給食の中で多くの人、作る人だけじゃなくてそれを運ぶ人であったり、多くの人協力があって給食ができているというものを小学生の方たちに意識の変革をさせていただく形で、そういういろんなものがあるんだから残さず食べてフードロスをなくしましょうという形の授業をやらせていただいた。こちらは1年間で一緒に給食を食べたという形の参加者が4866名、こちらには教師や報道関係の方も含まれる数だが、2社のメディアからも報道を受けて結構好評だった。青年会議所で実施する事業は単年度という形を取っているので1年間でその授業は終わるが、こちらに関しては好評のため次の年度から違う形で私どもの手から離れて移管先によって引き続き継続する授業になる。このような授業が多くなっていけば意識が変わっていった環境問題も少しずつ良くなっていくのかなと思った。(姫野委員)
- 今のフードロスでいうと、NHKのいろんな番組で相模原市の廃棄物について取り上げられていて、改めて映像を観ると非常にショック。フードロスでアフリカの飢餓が救えるという本当にそんな数字なんだなとビックリしてしまった。給食の取組というのは今後も何かまたやる予定はあるか。(井坂会長)
- はい、私どもが実施するわけではないが、移管先で団体を作って市と共同で継続してやっていくと聞いている。実際どうなのかは今は分からない。(姫野委員)

- あと、ゴミ箱は本当に困る時がある。電車の中にゴミを捨てていくのも非常に多い。椅子の下とか平気でペットボトルを置いていったりする。これは完全にマナーの問題。自動販売機の横にゴミ箱がない場合があって、どこに持っていけばいいんだろうと迷う時もある。
(井坂会長)
- 9ページの1番下の公園施設の改修・更新のところで、先ほど渡辺委員さんから中央公園のことでお話しがあったが、確かに魅力向上の意味では必要かと思う。都内のホールに行った時にトイレが汚くてガッカリしたという声もあった。市内の公園のトイレを優先順位を付けながら綺麗にしていきたいと思った。(後藤委員)
- 高速道路のSAなど、トイレはどこも力を入れているように感じる。子ども用のトイレの手洗い場に子どもの導線がわかるような工夫がされていて安心して見ていられた
(井坂会長)
- 相武台前駅から来ている。普通の住宅街だけど、さっきお話があったように、自治会に入っている人と入っていない人っていうのを、ゴミ問題としてはすごくジレンマを感じている。私が見ている限りでもある方は朝早くお仕事に行くときに投げていくから、その後カラスや猫が汚している場面を見ていない。帰ってくる時にはどなたかが掃除をしてくれているので、すごく平和に暮らせていると思う。その被害を被っている方たちって大体が自治会に入っている方たちでいつも同じ方が掃除をしている。私が住んでいるところは、周りがワンルームマンションに囲まれているので、そこがいけないわけじゃないけれど、私も常に他人のマンションの前を掃除している毎日。自治会に入っている入っていないの差をどうしたら良いのか。ノートを回してお掃除をしてくださる地域があるのは、とても信じられなかった。フードロスとかゴミ問題は、私個人としては、庭に穴を掘って生ゴミは全部捨てて自分の家で処理して少しでも最終処分場に行かないように頑張っている。大きいマンションとかでももっとそういうのがあったらいいなと素人ながらに色々考える。
(嶋村委員)
- 因みに、カラスが食い荒らすゴミの集積所ってネットを張るとか対策はしているか。
(井坂会長)
- やっているが、出して行く人はネットは関係ない。自転車でポイっとしてそのまま行くだけ。(嶋村委員)
- 確かに。うちの近所のゴミ捨て場でもネットがあるのに、ネットの中に入れていなくてドンと置いていく。現場を押さえているわけじゃないから文句も言えない。(井坂会長)
- 私は現場を押さえているが言えない。ご近所トラブルじゃないけれど、なかなか言えない。

なので、黙って掃除をするだけ。(嶋村委員)

- さっき、鈴木委員のノートを回してみんなで掃除をするっていうのは良いですね。

(井坂会長)

- 私の係の時は何をするかという、網の外に置かれたものは私は中に入れる。どこの誰が出したか分かるような書類がもしあったら、その家に返す。一度やったことがあるが、名前が書いてあったので「今日は生ごみの日じゃないですよ」と返した。そのようにチェックしていますよということを書いていかなきゃいけない。もう一つ、自治会でも考えているのが、防犯カメラを設置して犯人捜しをするのかなど。犯人捜ししてどうするのっていうのもあるので、管理するっていうのも難しいが、できるだけ朝早く行って誰が捨てているかをチェックしたり、そういうことを自分でできる範囲でやっているが、効果が1%あるかないかだと思う。(鈴木真司委員)

- 声を掛けている。前にプラゴミの日に汚れた発泡スチロールを捨てた人がいて、「すみません、これは持っていかないで月曜まで家に置いてください」と言って回収をお願いした。ポイ捨ては「ちゃんと網に入れてください」くらいの声掛けはやったほうがいいと思うし、ポイ捨ても、綺麗な街にはゴミは捨てていかない。だから、常日頃から自治会の皆さんにお家の周りのゴミは拾ってくださいという声かけはやっている。旭町はあんまりポイ捨てゴミはない。(中村洋子委員)

- ゴミの総排出量とか平成30年前とかのコロナ前ってどのくらいだったのか実績値として気になる。コロナのせいで増えて、コロナがなくなって戻ったというような、これより前と同じくらいの量だったら、あんまり直接的な効果が生み出されて数値が戻ったわけじゃないと思う。コロナがあって増えてコロナがなくなって戻ったのか、それよりもさらに昔コロナに入る前よりもっと下がっているのか、みたいなのを知りたい。そういうのは分かるのか？(松本委員)

- データは出せると思う。(事務局)

- コロナに入るところに向けてもちょっとずつ下がってきているし、コロナが落ち着いたせいでこの数値が下がったということか。(松本委員)

- 今、コロナが落ち着いて、家庭ごみは少し減って、事業系のゴミが増えてきたという説明

があったと思う。(井坂会長)

- コロナは、我々が収めることができない病気。我々がこういった取組をしたことで、どのくらい減ったのか見るといいと思って、そこが気になった。(松本委員)
- コロナ禍はお持ち帰りやテイクアウトが増え、お店を支えるためにテイクアウトしようよというキャンペーンもあったので、そういうゴミは増えたと思う。(中村洋子委員)
- 確かに、その前までとゴミの種類が変わったような感じがする。(松本委員)
- 最近コンビニはそういうのがすごく充実しているから、その辺は多い。(中村洋子委員)
- コロナの外的要因ではなく、直接取り組んだことに対して、どのくらい成果が出たのかが分かるといいなと思った。今後の対応のところで書いてあるように、ゴミじゃなくてちゃんと資源化できるものを分別することの啓発というのが、一番市民の方に啓発できる事だったりすると思うので、この取組がどのくらい反映されたのかとか見るとすごくいいなと感じた事。(松本委員)
- 資源ゴミって本当に各自治体によって回収の仕方も全く違う。熊本市は瓶の色も全部変えて、13種類くらいに分別している。(井坂会長)
- 大和市もそうだ。(中村洋子委員)
- 世田谷区は、生ゴミの中にペットボトル入れて出して大丈夫という感じだった。ペットボトルは回収の日はあるけれども。でも、それ以外のプラスチックトレーとかなんとかは全部入れて、そこは世田谷区の清掃工場はすごく温度が高いので、ダイオキシンが出にくいということで、20年くらい前だったりするが、そういうこともあった。相模原市だけの数値ということはないと思うが、まずそのやってきた取組が何か見える化・可視化できると、「じゃあもっと頑張ろう」という感じになるかもしれない、その辺もまた、可視化できるデータがあればありがたい。(井坂会長)
- 市民の方はやっぱり頑張って協力しているので、皆さんのおかげでこれだけ減りました、みたいなのをもらうと、やっぱり成果が上がっていると思える。(中村洋子委員)
- 若者目線で後継者の話については勿体ないと思っているし、自分が直接できればと思っている。しかし、若者とは言え自分の世代だと大学とか就職したことで時間がないという人もいて、ひとつ可能性があるとするれば、高校生を使ったほうがいいと思っている。その中

でこれから専門高校っていうのが総合的な学習等で、もっと地域と連携を強化していこうという動きがあって、高校側で地域と一緒に何かできる事はないか、農業、工業、福祉もそうだけれども、いろんな所で探しているところがある。そういったのがこれから10年くらい指導要領の改定に伴って、動きがあるだろうなと思っている。ゴミ問題に関しては、元々の環境に対する問題と、地域が汚れる生活環境の中でのゴミ問題という2つの議論がある。どちらも合わさってできているけれど、環境に対する問題というのは、焼却炉の性能が良くなればある程度改善するのかというところがある。それに対して、地元の美化の問題では、ルールを守らない人がいればなかなか技術で対応したとしても変わらない。座間はゴミ収集ボックスというトタンみたいな銀色の大きなボックスが置かれてから、猫に荒らされるとかはなくなって、ネットだとどうしても限界はあるが、開けるタイプのものはポイ捨てしていく人にとっては開けて捨てなきゃいけないので心理的な負担になると思う。逆にそれがあれば多少万が一しばらく家を空けるから、先に生ゴミ出していきたいっていう場合でも、中に入れてあるので、あまり臭いとかも出ないし荒らされる事もない。多少ルールを守らない人がいるのを織り込み済みで、むしろしっかり箱か何かを用意してあげるほうが美化の観点でいうと良いのではと思った。最後に、フードロスについて一番自分が思うのは、一番フードロスしているのはどこだろうと思うのは飲み会の時。飲み会の後、本当に全部出てきた物が全部綺麗になくなっている飲み会というのは、自分は何回かしか見たことがない。そこがひとつ教育というか意識改革の観点でいうとすごく重要なんじゃないかなと思う。経済的な話は絶対にあるし、そのほうが利益になるからという事情もあるだろうけれど、その辺も合わせた対策ができれば良いと考えている。(隈本委員)

- 高校生という話があったが、新磯で小学生とか中学生が花壇の手入れをすとかそういうような機会はなかったか。(井坂会長)
- 地域の高齢者のグループがあって、中学校の前の花壇の所は中学生を呼んで一緒にやっている。(鈴木真司委員)
- 新磯の芝桜はとてつもなく広いから、大変かと思う。小学生・中学生は地元の子なので何か継続できそうな気もするし、勿体ないと思った。(井坂会長)
- 賑わいがあることと環境・ゴミ問題はすごく相反するところがあり、バランスとることは

非常に難しい。相模原全体としてガイドラインやルールを、もっと認知・周知をやっていたほうがいいのかと思う。環境整備は、人の善意だけで全部できるのが理想だけれど、防犯カメラの話もあったが、仕組み作りが大事だと思う。ゴミ箱があるのにポイっと捨ててゴミ箱から外しても拾わない家族がいた。ネットの外に捨てる人を、意識と声がけだけで全部撤廃できるのか。地域のイベントの終わった後にゴミ拾いをするが、キリがない。私がゴミ拾いをしている横でポイっと捨てていく人もいたりする。「ゴミ箱どこですか？」と聞いてくれる人もたくさんいるが、ゴミを片付ける人がいて、誰かがやってくれているという事を、悪意ではなくて、知らない、気付かない人たちってすごく多いのだろうと思う。地道に声がけ周知ルールを伝え続けていく事は大事だと感じた。そういう意味では、J:COMとしては、自治会や皆さんの取り組みを周知・認知っていうのをTVやそういう所で少しでも積み重ねて、ニュース番組で放送などやっていきたい。先ほど、学生の力を借りようという話もあったが、以前、世田谷地域の事務所にいた時、世田谷は大学が7つくらいあって、大学生と自治会との取組っていうのがすごくある。各自治会に各大学のゼミが訪問し共同して、地域のことを考え解決する活動を結構大きくやっている。相模原でもそういう場面はあると思う。そういう大学生・高校生は、どうしても3、4年で入れ替わってしまうけれども、大学の文化としては残るので大事だと思った。人手に関しては、スポーツチームや企業は、地域貢献に対してすごく意識が高いので、大きな企業ほど手を貸してくれるだろうと思う。リユースの資源回収を小田急さんとかショッピングセンターでやっている。いわゆるサステナ活動というのは、結構スポーツ支援企業も力を入れているので、遠慮なく声をかけていただければと思う。我々がハブとなって、そういう企業さんを募集していますと仲介を拡大できればと思っている。最後に、仕事上で自治体フォーラムとか、東京ビッグサイトとかで新しい技術とか、いろんな企業さんが行政とか自治体向けにサービスを披露するようなフォーラムがあったりする。その中で、ゴミの資源化に力を入れている企業さんとか団体があった。「このゴミはこういう風になるんだ」と感動した事があるので、そういう資源化の部分でも新しい技術だとかを皆さんの中に「このゴミって捨てるんじゃなくて、こうするといいよ」というのがまだまだあるのかなと思ったりする。そういう事を勉強してお伝えできればと感じた。(西生委員)

○ うちの地域で広い道路横、斜めに横浜水道道が通っている所があり、そこにゴミ置き場がある。車で捨てていくのか、ものすごい量があった。指定されたゴミではなくていろんな物が無造作に捨てられているという状況があった。これを周りの人がちょっと考えて、赤い鳥居を作った。その後、ほとんど不法投棄がなくなった。ゴミ看板を作る等、一生懸命やっていると少しずつではあるが解消されていっている。自治会員の人たちが今ゴミ当番という事でやっているけれども、それ以外の人たちも、周りがやっているという事で、少しでもそういう事に対してやってくれるようになっていく。先ほど言われたように、捨てる方全員でゴミ当番をできれば良いけれど、なかなかそれはできない。少なくとも周りがキレイにする、自分もキレイにするという意識は持ってくれるのかなと思っている。中学生のボランティアという形ではあるが、防災に関して何かお願いしようと思っている。もし、何かあった時に、中学生は、地元にいる。それで周りの方の事を良く知っている。普段からそういう取組行っている。中学生たちにも少しでも自分達がやらなきゃという意識を持ち始めてくれているので、これは良い事かなと思っている。あとは、ペットボトルについては、私もゴミ清掃場に行って、ボトルやプラごみが処分されるのを見てきた。ペットボトルって、中が汚いものはペットボトルとしてではなくて、普通のプラごみとして分けられてそっちに分別されてしまう。綺麗なペットボトルはペットボトルとしてキッチンとした形で分別される。クーラー室外機の排水の下にペットボトルを置いてみたところ、半日も経たずに2Lのペットボトルがいっぱいになった。それを使ってペットボトルの中を綺麗にしようというのを少しずつやってみた。これについては、皆さんにも良ければやっていただきたいと思う。資源ゴミとして市に出すのではなくて、我々自治会等が回収して、それを業者のほうに我々が直接売ると、市のほうがそれだけ手間暇をはぶけるので、それに対して少し補助金をいただける制度がある。ビンとか缶っていうのはもちろんそちらの制度に入っているんだけど、ペットボトルが入ってないので、それも入れてほしいと自治会のほうから要望があり、市のほうにお願いをしている。公園の清掃についても、みんなが公園を少しでも綺麗にしよう、自分達が綺麗に使ったら快く使えると意識させる。その辺のところは無理にというわけではないが、皆さんにお願いしてやってもらっている。

(田村 (久) 委員)

- ちなみに、この前のお祭りの時のゴミはどんな感じだったか。(井坂会長)
- 以前は中学生にお願いして、授業の一環としてや手伝ってもらっていたが、今は手を挙げてくれた学生たちをお願いをし、サポーターTシャツを着てもらい、お祭りが終わった後にみんなでゴミ拾いをしてもらってちゃんと分別して、農協の裏の大きい倉庫のところに全部集めた。(田村(久)委員)
- 皆様からひと通り意見を伺って、2つ目の取り組み目標のVIに関しての内容は、わりと総まとめ的な話にもなっているかと思う。もし継続していければ、今のお話の中でまとめつつ次回に持ち越ししてもよければという形で考えたいがどうか。(井坂会長)
- 持ち越しについてはこちらで調整する。またスケジュールを改めて周知する。(事務局)
- 取組目標のVIに書いてある、地域の担い手の連携・担い手の育成・活動の活性化は今までずっと話してきた事のいろんな側面で絡んでいるのかなと思うので、VIの様子も見つつ、今回のゴミ問題、環境問題など、皆さんからひと通り意見を聞いたところだが、まだ発言したい方はぜひお話をさせていただきたい。ゴミの捨て方ひとつでもマナーの問題等あるが、自治体によって外国人が多いところと違ってというのは、4か国語くらいでゴミの周知をしたり、悪気があって捨てるわけじゃなくて、知らなくてっていう人もたぶんいると思う。今、外国の方も結構いらっしゃると思うが、相模原市としてゴミ出しのこと等で、行政アナウンスというのは、どういう形で何か国語くらいあるのか？(井坂会長)
- ホームページで言語切り替えのボタンがあるので全てのページではないが切り替えることができる。区政策課の隣に行政資料コーナーがあり、ゴミのハンドブック等多言語対応の冊子を用意している。(事務局)
- 相模原市のホームページ上では、英語・中国語・韓国語・朝鮮語・フィリピン語・タイ語・ポルトガル語・スペイン語・カンボジア語・ベトナム語、の生活ガイドに掲載されている。
(地域振興課長)
- 区民となった時、区民課の対応が一番大事だと考える。住所変更してきた時に、案内ができるといい。(中村洋子委員)
- 今、さがまちでは何かゴミとか環境美化の活動はしているのか。(井坂会長)
- 町田の小学生、中学生ひとり親世帯の学習支援の事業を受託して行っている。その活動

の一環で境川を綺麗にする活動をしている。(松本委員)

- 自治会に若者・下の世代が加入しない課題というのは町田の自治会の方からも話は聞く。自治会が何をやっているところなのかというのが若者は分からないだろうと思う。若い人に「自治会に自分だったら入る？」と聞くと、損得で考えると思う。損得だけじゃなくて実際にどういう役割を担っているのか、どういう下支えをしているという事を伝えたほうがいいと思う。実態とのギャップはそこにあるのかもしれないと思う。(松本委員)
- 都内での自治会の減少が著しく、加入率が20%を下回ってきている。防災など行政は自治会に戻すが、自治会に加入する人がいない。だから別の防災ボランティアを作るなどする。本来箇所に流せばいいものをいろんな所に周知しなければいけない。アンケートを見たと、やっている事は似たような事だが、若者のボランティアやPTAの参加数は高いが、自治会になると低くなる。「自治会ってどういう意義・意味があるの？」という事を、若い人たちに知らしめればいい。我々の世代よりももっと上の方々、いわゆる高度成長期を支えていただいていたような年代の方々が自治会のトップの場合が多い。若い人からすると、「ご年配の人たちで勝手に決めて我々は参加できない」という感覚を持っている人たちも結構いるのだろうなど。そこをどう一緒にやっていくのが重要だと思った。

(西生委員)

- 私もこの区民会議に参加して何年にもなるが、どのように接点を作るのが毎回課題となる。(井坂会長)
- そもそもが、住民自治である。「自分たちの事は自分たちで」と思ってないと、特に災害などでは助けられない。だから、思いを一緒にするため、繋げておくために、お祭りなどを開催する。そこで知り合いができて、関係性をいかに細かく作れるか、ということが大事なのかと思う。区民会議、自治会会議、まちづくり会議も、その視点で携わっている。昔に比べて人のコミュニティの力が弱くなってしまったのが課題。どう連携を作るか。4年しかない大学生にもこの町の住人となったご縁を大事にしてもらいたいと思っている。だから、成人を迎えた子には、選挙があったら立会人になってくれないかと声を掛ける。その人々の思いをこの取組目標Ⅵの項目でどう豊かにするかというところが課題かなと思っている。(中村洋子委員)

- コミュニティの希薄化はどの地域でも問題になっている。主に若者がコミュニティに参加しないとされている。これは、コミュニティがなくなっているのではなく、コミュニティの環境・場所が変わっていると考える。若者にとってのコミュニティはネット空間。片方はリアルで片方はバーチャル。ここを繋いであげる必要がある。推し活でもアイドルでも良いけれど、何かキーワードがあればそこに繋がるような利害関係が重要。在り方とか意識改革のような抽象的なものではなくて、若者にアプローチするのであれば、「活動がお金になるよ」とか、ビジネスだったらとか、どういう経験ができるとか、若者目線に立った利益の部分、アピールしてあげる事ができたらきっと繋がれる。(隈本委員)
- 損得の事でいうと、学生を見て、金銭的な事ではなく「やって楽しかった」というのは彼女らの掲げるメリットかなと。そういうところが増えるといいと思う。(井坂会長)
- 「ちょこっとサポートしたい」というボランティア活動でリーダーをしていたが、22歳の学生が入り代表までやってくれた。その子は周囲の学生にも活動を勧めると言ってくれた。ボランティアの加入条件にあった新磯地区の住民に限るという条項を外し、間口を広くした。若者の地域活動への勧誘は少しずつ声をかけていけば不可能ではない。悪い例もある。夏祭りを開催した。かき氷やポップコーンを自治会員の加入を問わず無料で配っていたが、抽選会だけは自治会員限定にしていたため抽選会の時点で半数が帰ってしまった。(鈴木真司委員)
- 大きな団地の自治会があった。そこは、「団地に入る＝自治会に入る」という認識だった。そこではイベントの運営を子どもたちに手伝ってもらおう。お金を貰うのではなくて、ありがとうという笑顔を貰うことが子どもたちは嬉しかったとのこと。子どもに好評だったという事で若い人・子育て中のお母さんたちが、役員をやってくれた。なので、今後もっとアピールしていきたいと思う。(田村(久)委員)
- 討議の熱が高まってきたところだが、ちょうどVIの取組目標の内容に入ってきた。今日の議論を元にしながら、次回、さらに深めていければと思う。では、その他のところで浅田委員をお願いします。(井坂会長)

4 その他

- 相武台で起きている悩ましい話を共有したいと思う。相武台の第三児童館は、子どもの居

場所であるが、幼児から高校生までは使用できる。夏休みという事もあり、9時～17時で開いている。7月末くらいに、中学生と若干の小学生、6～7人が来た。ラケットを投げたり、飛び回ったりなどをしたので、注意したが聞かないという事があった。補助員の女性2人に迫って恐怖を与えた。子どもがナイフのような物を持ちこんだこともあり、その時は帰ったが、その後職員は勤務自体が怖くなってしまったことがあった。その職員の身の安全と、その場にいる他の子どもたちに危害を加えてしまうのではないかと心配している。閉館するかしないかの話まで出た。あとは8月どうやって人を回していこうかという話もある。地域の方でどなたか、女性職員だけの時に見守っていただける方がいないかと市へ相談したところ、子ども施設課の方にも来ていただいた。私が近くに住んでいるので出向く事が多く、15時～17時の時間帯に見守っている。安全面の話もあるが、子どもたちの育ちというか、居場所として機能しなくなる恐れがある。今後どう上手く向き合っていくかはすごく深い問題。第3児童館・第2児童館・公民館・子どもセンター、その4箇所を回りながら事案が起こっている。これに対し警察とも連携してパトロールをしている状況。事が起きてしまってからでは遅い。学校的には相武台と相模台と麻溝台と東林と座間のあたりの中学校の子どもたちが、SNSで繋がって広がっているんじゃないかと想像している。このような動きをしているという事を共有まで。（浅田委員）

- 児童館に来ない時に溜まり場になっている場所はあるか。（井坂会長）
- 第2児童館に行ってダメだったら第3児童館に流れたり、第3児童館で大人がいるから今日はマズいみたいになると、今度は公民館に行っている。その他はどこに行っているかは分からない。カツアゲ、万引きをほのめかすことを発言している。そんなに毎日に来ない。直接会ったのは2回。（浅田委員）
- そういう時は、大人がいると引いていくのか。（井坂会長）
- 普段と違うと察知するみたい。特に市職員が来ている時は、「なんで市の職員が来ているんだ」と女性の職員に聞いたりしている。そういう時は、「夏休みは人手が足りないから来てもらっているんだよ」と言っている。あまり長居せずに、また暴れもしない、やっぱり、男性がいると動きが違う。（浅田委員）
- 事務局より第3回でご質問があった旧耐震と新耐震の耐震化基準について資料提供および

説明を行った。また、次回の区民会議を10月に予定していること、運営委員立候補して
いただいた方には無作為抽出型区民討議会開催についてお知らせする旨を連絡した。

5 閉会

別紙

相模原市南区区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	田村 小次郎	大野中地区まちづくり会議		欠席
2	中村 洋子	大野南地区まちづくり会議		出席
3	伊藤 信裕	麻溝地区まちづくり会議		欠席
4	鈴木 真司	新磯地区まちづくり会議		出席
5	中村 明	相模台地区まちづくり会議		欠席
6	浅田 聡	相武台地区まちづくり会議		出席
7	田村 久司	東林地区まちづくり会議	副会長	出席
8	鈴木 貴市	相模原南交通安全協会		欠席
9	佐田 昌史	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
10	草薙 喜義	相模原市社会福祉法人経営者協議会		出席
11	渋谷 典彦	相模原市22地区社会福祉協議会南区連絡会		欠席
12	渡辺 美帆	子育て応援団W i t h		出席
13	大西 麻衣	相模原商工会議所		出席
14	姫野 大輔	相模原青年会議所		出席
15	後藤 弘幸	相模原市民文化財団		出席
16	遠木 ナオ	チームユニバース運営委員会		欠席
17	井坂 聡	相模女子大学人間社会学部	会長	出席
18	藤田 百合	女子美術大学芸術学部		欠席
19	朝日田 卓	北里大学 地域連携室		欠席
20	小池 清史	公募委員		欠席
21	嶋村 裕子	公募委員		出席
22	松本 圭介	公益財団法人 相模原・町田大学地域コンソーシアム (市民・大学交流センター)		出席
23	隈本 光	南区若者参加プロジェクト実行委員会		出席
24	西生 篤	ジェイコム湘南・神奈川 相模原・大和局		出席